

防災講座【グループ学習】

No.	テーマ	概 要
1	DIG (ディグ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が地図を使って防災対策を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 避難経路、避難行動要支援者対策等いろいろなテーマで実施することができる。 ➢ 防災まち歩き（タウンウォッチング）と組み合わせて実施すると効果的
2	防災地図の作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 白地図にいろいろな情報を書き込み小学校校区から各自治会単位の防災地図を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 危険箇所、避難経路、防災に必要な情報（消火栓、防災倉庫、防災士、避難行動要支援者の居住場所、空家など）を書き込む。 ➢ 避難経路マップ、助けあいマップなどの呼び方もある。
3	避難所レイアウトの作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所のスペースに必要な機能を配置していく。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設管理者、避難所担当職員が参加すると実効性が高まる。 ➢ 地区防災計画に記載することにより、地区の共有知識とすることができる。 ● 実践的な避難所開設訓練に使用できる。
4	避難所運営ゲーム（HUG）	<ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県が作成したツール（カード・避難所平面図）を使用し、避難所運営を疑似体験するゲームを使用し、実践的な避難所運営を学ぶ。 ● グループに分かれての演習となるため、参加者同士の交流や連帯感を醸成する。
5	目黒巻	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京大学の目黒公郎教授が考案した災害状況を想像する力（災害イマジネーション）を高めるツールを使用し、災害をイメージする力を培う。 ● 災害時の状況を自分自身の問題としてイメージすることができる。
6	クロスロード	<ul style="list-style-type: none"> ● カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 参加者は、災害対応を自らの問題としてアクティブに考えることができる。 ● 自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきも得ることができる。